

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 岡崎市立竜南中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 4 4 4 - 0 8 0 6

愛知県岡崎市緑丘2丁目17番地

E-mail ryunan@st.oklab.jp

Website _____

幼児児童生徒数 男子 2 6 3 名 女子 2 5 5 名 合計 5 1 8 名

幼児・児童・生徒の年齢 1 3 歳 ~ 1 5 歳

2. 報告期間

平成 2 9 年 4 月 ~ 平成 3 0 年 3 月

※報告書提出時点~平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応
防災学習、ボランティア活動

本校は、「竜南いのち守り隊」を活動テーマとして、ESDを、防災学習やボランティア活動を通して地域とのつながりを深める場と捉え、その実践を通して多面的、総合的に考える力・つながりを尊重する態度の力の育成を目標とした。

具体的には、総合的な学習の時間に行った防災学習、1年間を通して行われるボランティア活動を柱に、①地域とのつながりを深める活動、②防災意識を高める活動、③被災地の人々の想いに根ざした防災学習、④防災学習の成果を広める活動を行った。

① 地域とのつながりを深める活動

本校では、年間を通してベルマーク収集やプルタブ回収、といった資源回収を行っている。夏休みには、学区小学校の夏祭りボランティアを行っている。準備段階から運営に携わっており、会場の清掃・出店の店番などを行っている。毎年、地区委員の方から依頼をされており、地域の方々との交流を通して、互いに助け合うことや感謝されることに喜びを感じる心を育てていきたい。

② 防災意識を高める活動

本校では、年に2回避難訓練を実施している。全校生徒が避難できたタイムを計測し、各学級が緊張感をもって行っている。そのため、生徒も被災時の対応についての理解を年々深めている。また、地域防災訓練にも30名ほどの生徒が参加をしており、地域の方々のお話を聞いたり、防災グッズの知識を深めたり、放水訓練を行ったりと、防災意識を高めることができています。

③ 被災地の人々の想いに根ざした防災学習

本校では、毎年夏休みに東北復興支援訪問として、宮城県の荒浜中学校と漁業組合、閉上震災を伝える会を訪れ、現地の人と交流することによって、災害というものを目の当たりにする。今年も約60名の生徒が申し込み、抽選で約30名の生徒で東北を訪れた。この中で、本校で集めたバルマークの寄贈を行うなど、荒浜中学校との交流も続いている。被災地を訪れた生徒が、防災の大切さを実感し、2学期以降の防災学習に深みが出てくる。

④ 防災学習の成果を広める活動

本校では、2月に3年生が、防災学習のまとめとして、「防災フェスタ」を開催する。1年を通して学んできた防災学習を1，2年生に発表する。3年生は後輩に、「伝える」段階として、「分かりやすく」「楽しく」を考えて発表の準備を行う。そうすることで、3年生は知識を定着させ、その体験的な発表を聞くことにより、1，2年生が楽しみながら学べるものとなる。発表を通して、3年生は防災リーダーとしての自覚をより一層高め、1，2年生は防災学習に興味をもつことで「竜南いのち守り隊」の活動を引き継いでいる。



①夏祭りボランティアの写真



②全校避難訓練の写真



③東北復興支援訪問の語り部さんのお話し



④防災フェスタでの発表

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

南海トラフ巨大地震 wikipedia https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8D%97%E6%B5%B7%E3%83%88%E3%83%A9%E3%83%95%E5%B7%A8%E5%A4%A7%E5%9C%B0%E9%9C%87 身近な防災対策について http://www.bousai.go.jp/pdf/oyakudachi02.pdf 等。

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程 (指導計画) にどのような

に位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。(200～300字程度)

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校では、1, 2年生のころから、全校生徒による追究活動「竜南いのち守り隊」として、生徒たちは意欲をもって防災学習に取り組む。そして、3年生は、年間を通して特に防災学習に力を入れている。1学期には、つかむ段階として、防災オリエンテーションや、防災講話などを行い、防災について知る。2学期の防災学習を前に、夏休みには東北復興支援訪問として宮城県の荒浜中学校を訪れ、現地の人と交流を行い、震災当時のお話を聞いたり、交流を行ったりする。3学期には、防災学習のまとめとして、「衣・食・住・知」の 카테고リーに分け、それぞれの分野を追究し、下級生に発表する防災フェスタを行う。これによって、全校で防災に対しての意識が高まっていく。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

毎年2月の総合的な学習の時間に、3年生が中学校3年間を通して学んできた防災の知識を、下級生に発表する防災フェスタという行事を行っている。今年は、「衣・食・住・知」の4つの 카테고リーに分かれ、被災時に適した服装や、簡単に調理ができる非常食、避難所で重視されていることや、学区で避難する場所など、様々な発表が行われた。また、その他にも地域小学校夏祭りボランティアや地域清掃ボランティア、東北被災地訪問ボランティアなどが毎年行われており、今年も多くの生徒が参加をし、ボランティアを通して感謝をされたことで、満足感や達成感を味わうことができた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

本校で3年生が、防災の授業の集大成として行う防災フェスタ後には、来年度に向けて、教師側で上手くいった点と上手くいかなかった点について検討し、次年度に生かすことができるようにしている。また、夏休みに行われている地域小学校夏祭りボランティアや地域道路清掃ボランティアでは、担当になった地域の方々に、中学生の動きについて話を頂き、次年度に生かせるようにしている。そして、その反省を次年度の生徒会担当が把握をし、前年度よりも改善ができるように努めている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ボランティア活動に取り組んでいる様子や、東北訪問の様子を本校HPに取り上げることで、学校全体としてボランティアに取り組んでいるということが地域の方々にも広報できている。校内で東北訪問に行った生徒の報告会を行うことで、生徒が防災について学ぶきっかけとなっている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

夏休みに行われる地域小学校ボランティアでは、夏祭りの店番を行い、地域の方々とのコミュニケーションを取り、屋台の運営を行う。また、道路清掃ボランティアでは、朝早くに学校に集まり、学区を歩き、ごみを拾う。これも、地域の方々とのコミュニケーションを取りながら協力して行うことで、地域ネットワークを形成していく。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

国内外のユネスコスクールとの交流はできておりません。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

生徒たちは、中学校生活を通して防災の知識を深めていく中で、被災時には、中学生が乳幼児や高齢者の方々を助ける大切な役割を果たすことを理解することができた。また、被災時には地域の方々のために積極的に行動していきたいという思いが浸透した。また、夏休みには、地域の小学校夏祭りボランティアや、地域道路清掃ボランティアを継続して行うことで、本校では、ボランティア意識が高まり、人のために行動できる生徒が増加した。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

4月 避難訓練（全校）
5月 防災オリエンテーション（そなエリア体験）
7月 防災講和
8月 地域ボランティア参加、東北復興支援訪問
9月 避難訓練（全校）
東北復興支援訪問報告会
11月 文化祭での発表活動
1月 学習のまとめ
2月 防災フェスタ